

12月セリ会報告

史上最高の46名の出席で多くの出品があり楽しいセリ会でした。役員はじめお手伝いの皆様、ご出席の方々有難うございました。以下にご報告させていただきます。次回も又和気藹々たる楽しいセリになるようご協力方よろしくお願い申し上げます。一部寄付もありました、御礼申し上げます。

番号	出品者	品名	数量	出品値	落札者	落札値
1	大島 良美	書籍(埼玉蝶の世界)	1冊	¥1500	三輪	¥1500
	大島 良美	携帯用標本箱	1個	¥500	上原	¥700
	大島 良美	昆虫切手(甲虫6種)	1一式	¥500	斎藤(太)	¥500
	大島 良美	昆虫切手(トンボ、セミ4種)	1一式	¥500	岡田(秀)	¥500
2	藤岡 知夫	九州産ゼフ(飼育)セット	1セット	¥1,000	山田(成)	¥5000
	藤岡 知夫	九州産オオムラサキ(飼育)セット	1セット	¥1,000	斎藤(軍)	¥2500
	藤岡 知夫	外国産ゼフセット	1セット	¥1,000	坂本	¥4000
3	池沢 隆一	クロツバメシジミ,ミヤマシジミ	1一式	¥500	樋田(光)	¥3000
	池沢 隆一	ベニモンマダラ,ベニヒカゲ	1一式	¥500	朝長	¥1500
4	栗山 定	蝶カレンダー(2007)	1一式	¥500	山田(厚)	¥1000
5	渡辺 隆	ダイアナヒョウモン	1♂	¥700	朝長	¥2600
	渡辺 隆	<i>Ixias marianne</i> (メスシロキチョウ)	2♂	¥500	杉山	¥1500
	渡辺 隆	蝶切手	1一式	¥600	池沢	¥600
6	手代木 求	アゲハチョウ(アンボン、セラム)	3種3頭	¥900	斎藤(太)	¥3000
	手代木 求	シロチョウ(アンボン、セラム)	4種5頭	¥900	杉山	¥3000
	手代木 求	Hypolimnas(アンボン、セラム)	3種5頭	¥900	仁平	¥2000
	手代木 求	マダラチョウ(アンボン、セラム)	4種5頭	¥900	斎藤(太)	¥1100
7	寺 章夫	上皿天秤	1台	¥1,000	山田(厚)	¥1000
	寺 章夫	切手類	1額	¥1,000	新井	¥1500
	寺 章夫	蝶時計	1台	¥1000	坂本	¥1000
8	坂本 洋典	立体絵葉書「チョウと虫取り網」	1一式	¥200	山田(厚)	¥500
9	小柴 清之	メスアカミドリシジミの卵	10卵	¥1,000	山田(成)	¥2000
	小柴 清之	『養老孟司のデジタル昆虫図鑑』	1冊	¥1,000	岡田(秀)	¥1100
	小柴 清之	オオムラサキ幼虫	5頭	¥500	早坂	¥1000
	小柴 清之	ハヤシミドリ卵	10卵	¥1,000	斎藤(軍)	¥2200
10	小野 令三	ベトナム蝶切手	1セット	¥100	仁平	¥200

	小野 令三	ベトナム蝶切手	1セット	¥100	栗山	¥200
11	朝長 政昭	蛾のセット	1一式	¥500	池沢	¥1500
	朝長 政昭	相模川の採集品セット	1一式	¥500	山田(厚)	¥1000
	朝長 政昭	前足展足したカトカラのセット	1一式	¥1,000	仲西	¥3000
	朝長 政昭	九州大ウラギンヒョウモン1♂3♀	1一式	¥1,000	雫石	¥3500
12	山田 厚子	ベルリンの壁の破片	1個	¥1,000	新井	¥2000
13	倉地 正	アゲハチョウの生物学	1冊	¥1,500	山田(成)	¥2000
	倉地 正	野外観察図鑑 植物	1冊	¥300	上原	¥500
	倉地 正	田淵行男 自然の賛歌	1セット	¥300	栗山	¥800
	倉地 正	テレカ ツマベニ	1枚	¥500	栗山	¥700
14	松田 邦雄	世界の昆虫百科	1冊	¥1,000	三輪	¥1000
	松田 邦雄	アポロウスバシロチョウ♂	1♂	¥300	北川	¥700
	松田 邦雄	ヒメシジミ	3ex	¥500	栗山	¥500
	松田 邦雄	ミドリシジミ	3ex	¥500	仁平	¥1200
15	山田 成明	ゴマシジミ	4頭	¥800	小出	¥4000
	山田 成明	ウラジャノメ	2♂	¥1,000	斎藤(太)	¥3000
	山田 成明	ホシチャバナセセリ	4♂	¥800	斎藤(軍)	¥2100
16	宮崎 茂穂	<i>Cynitia stellata</i> ♂	1頭	¥500	栗山	¥4500
	宮崎 茂穂	オオゴンテングアゲハ	1頭	¥3,000	新井	¥15000
	宮崎 茂穂	オオゴンテングアゲハ	1頭	¥3,000	新井	¥8000
	宮崎 茂穂	アルポプンクタータオオイナズマ	1ペア	¥2,000	松浦	¥5000
17	仁平 勲	ゴマシジミ	2♂	¥500	斎藤(軍)	¥1300
	仁平 勲	マキバヒョウモンモドキ、フランス	1P	¥300	朝長	¥1200
	仁平 勲	ゴマシジミ	1P	¥800	池沢	¥1500
	仁平 勲	ネグロスピッカリジャノメ、ネグロス	1P	¥500	栗山	¥1500
18	斎藤(太)	蛾	1一式	¥500	麻生	¥1500
	斎藤(太)	各種蝶、ベトナム	1一式	¥500	渡辺	¥1500
	斎藤(太)	ワモンチョウ2種、ベトナム	1一式	¥500	上原	¥1500
	斎藤(太)	ギフチョウ2頭	1一式	¥1,000	藤岡	¥3000
19	福嶋 美恵	メモ帳	1一式	¥500	山田(厚)	¥700
	福嶋 美恵	ウオッカ	1一式	¥1,000	仲西	¥1500
20	中原 真一	ベニモンカラス卵	20卵	¥500	渡辺	¥7000
21	雫石 卓	オウゴンテングアゲハ ♂	1頭	¥1,000	新井	¥6000
	雫石 卓	サルダナパルスアグリアス	1ペア	¥2,000	渡辺	¥6500
	雫石 卓	ファルキドンアグリアス ♂	1頭	¥1,000	小出	¥10000

	雫石 卓	ツマグロキチョウ	1頭	¥1,000	藤岡	¥5000
22	木下 隆方	ルーミスジミ	1一式	¥1,000	斉藤(軍)	¥2500
	木下 隆方	ギフチョウ	1一式	¥1,000	藤岡	¥5000
	木下 隆方	アカエリトリバナアゲハ	1♂	¥1,000	松浦	¥4000
	木下 隆方	フジミドリシジミ	1一式	¥1,000	樋田(光)	¥2000
23	北川 朝生	北朝鮮の雑蝶160頭セット	1一式	¥1,000	富永	¥8000
	北川 朝生	チベットの雑蝶80頭セット	1一式	¥1,000	山田(成)	¥7000
	北川 朝生	ベニヒカゲセット	1一式	¥500	森本	¥1500
	北川 朝生	ヒメシジミとアサマセット	1一式	¥500	辻	¥5200
24	仲西 周二	オオミドリシジミ卵	25卵	¥1,000	藤森	¥1500
	仲西 周二	ギフチョウ(Y&B・バンド)	各1	¥1,000	新井	¥5000
	仲西 周二	キベリタテハ、オオイチモンジ	各2計4	¥1,000	斉藤(軍)	¥3500
	仲西 周二	オオルリシジミ	1一式	¥1,000	雫石	¥3000
25	津田 増夫	展翅版	一個	¥1,000	早坂	¥1000
	津田 増夫	全日空株主特別優待券 1	1枚	¥4,800	斉藤(軍)	¥4800
	津田 増夫	全日空株主特別優待券 2	1枚	¥4,800	斉藤(軍)	¥4800
26	早坂 弘次	パルナシウスセット	1一式	¥500	朝長	¥5000
27	雨宮 範正	アサマシジミ	1ペア	¥1,000	岡田(秀)	¥1000
	雨宮 範正	ウラキンシジミ	1ペア	¥1,000	藤岡	¥1000
	雨宮 範正	クロミドリシジミ	1ペア	¥1,000	仲西	¥2000
	雨宮 範正	ロボリスシジミ、スペイン	1ペア	¥1,000	小出	¥1500
28	羽鳥 信義	アカボシゴマダラ幼虫	10幼	¥500	山田(成)	¥2500
	羽鳥 信義	同上	10幼	¥500	杉山	¥2500
	羽鳥 信義	同上	10幼	¥500	渡辺	¥2500
29	小出 雄一	ミヤマシロチョウセット	1一式	¥5,000	辻	¥6000
	小出 雄一	シナシボリアゲハ	1一式	¥7,000	辻	¥7000
	小出 雄一	シボリアゲハ	1一式	¥1,000	辻	¥2000
	小出 雄一	大きめのカルナルリモンアゲハ	1一式	¥1,000	栗山	¥2000
30	樋田 光	SPINDA 2005 No20	1一式	¥1,000	坂本	¥2200
	樋田 光	「長崎県の蝶」	1一式	¥1,000	斉藤(軍)	¥1700
	樋田 光	クロツバメシジミ10産地セット	1一式	¥1,000	藤岡	¥5000
		基金(24.29からの一部寄付含む)	¥53900		合計	¥260900

* 住所、電話、メールアドレス変更、訂正等

渡部治 〒152-0033

石雅和 favonius1746@yahoo.co.jp

水野貴祥 taka-sax_a_gogo_yt902@hotmail.co.jp T: 090-8050-8248

朝日純一 〒168-0072 杉並区高井戸東 4-1-32 T.F: 03-6715-6033

松井安俊 〒八王子市松ヶ谷 30 松ヶ谷団地 1-105 T.F: 042-676-4217

* 新聞紙上より

稲垣栄洋著

蝶々はなぜ 葉の葉にとまるのか

公園の秋の花が、動物のたび重なる粗相のせいで枯れかかっている。動・植物のどつちが可愛いかなど、野暮なことは聞くまい。犬をつれた奥さんは皆上品だ。自宅では両方共可愛がっているに違いない。

草花は鷹揚に構えているかに見えるが、強かに生きて来た。植物が地上に現れたのは4億5千万年前。環境の変化を乗り越え生存競争に打ち勝ち、人間は植物を利用して文化を築いた。人間と植物双方の思惑が交錯したドラマを、植物学者が諧謔溢れる筆致で描く。たとえば松はなぜめでたいか。松葉は2本一組で寄り添うが、二つの葉は出どころが微妙にズレている。べったりくっつくより、少し距離を置いた方が夫婦は長続きする。怪談・お菊の幽霊が墓場に現れるのは、お菊虫（アケハ蝶のサナギ）の餌が墓地周辺に沢山生えているからだ。

本文を三上修の精緻なペン画が引き立てる。カラー図鑑を取りよせ、色鉛筆で塗ってみたくなった。（草思社、1400円）

06.12.10 読死

評者・櫻井 孝穎（第一生命相談役）

多摩動物公園昆虫園から



02.5.11 朝日

マダラカマドウマ マンション増えなじみ薄れ

「かまど」と言われても、今の子どもたちにはびんどこないかも知れない。土間の湿った炊事場の近くにあつて、火をたくので暖かい。

カマドウマは名前の通り、じめじめして暖かいかまどのそばが大好き。雑食性で肉も魚も野菜も食べるので、炊事場の近くならえさにも困らない。

先祖はバッタと同じだったのに、洞くつで暮らすうちに羽が退化し、じめじめしたところに集まるうちに人間にも嫌われてしまった。

ちょっと前までは、どこの家でもこの虫がピョンピョンと跳び回っていた。ゴキブリやハエと同じように、だれでも知っているおじやま虫だったが、乾燥した最近のマンションは苦手。今の子どもたちには、不思議な名前の珍しい虫に見えるのかもしれない。

園では、ヒグマやタヌキの飼育室や通路でよく見かける。暗くて湿っているので心地いいらしい。（高家博成）